

第5号
平成21年7月

ちばがく

放送大学千葉学習センター
THE OPEN UNIVERSITY OF JAPAN CHIBA STUDY CENTER



7月24日(金)から8月2日(日)にかけて、平成21年度第1学期単位認定試験が行われました。千葉学習センターの8日間での受験予定者数は、大学院生延べ629名、学部学生延べ10,667名でした。学習センターのあちこちで、寸暇を惜しんで勉学する学生諸氏の姿がみられました。

写真：山本直美

The more I learn, the more I realize I don't know.
The more I realize I don't know, the more I want to learn.
Albert Einstein: 1879-1955

平成22年度・第1学期開設「面接授業」がほぼ確定しました。

多くの学生諸氏から、平成22年度に新たに開設することが望まれる「面接授業」科目・内容についてご意見・ご要望をいただきました。千葉学習センターでは、学生諸氏のご意見・ご要望を可能な限り反映し、来年度第1学期「面接授業」の全容をほぼ確定いたしました。「面接授業」数も、本年度より多くなっています。どうぞ、ご期待ください。

なお、千葉学習センターでは、学生諸氏の履修計画立案に便を図るべく、来年度第2学期の「面接授業」の全容も遠からず確定・公表する予定です。[関連記事：本誌4-5ページ](#)。

平成21年度・第1学期・単位認定試験が実施されました。

7月24日(金)から8月2日(日)にかけて、平成21年度第1学期単位認定試験が行われました。

千葉学習センターでは、8日の間に、大学院78科目、学部340科目の試験が行われました。受験予定者数は、大学院生延べ629名、学部学生延べ10,667名でした(実質数は整理中)。受験生の寸暇を惜しんで勉学する姿が、学習センターのあちらこちらで見られました。[関連記事：本誌7ページ](#)。

サークルならびに同窓会の方々との懇談会を催しました。

7月9日(木)15時00分～17時20分にサークルの方々との懇談会、7月12日(日)15時00分～17時00分に同窓会の方々との懇談会を催しました。

2つの懇談会は、日ごろの活動の様子を披露していただくとともに、その活動のなかで感じられている問題点などをお話いただき、千葉学習センターの運営に活かしていくことができたらの思いで行ったものです。[関連記事：本誌3ページ](#)。

千葉学習センターホームページ、ただいまリニューアル中です。

ただいま、千葉学習センターでは、ホームページをリニューアルしています。当分の間ご不便をおかけしますが、リニューアル後のホームページをお待ちください。

遅くとも10月上旬には、新しいホームページをご覧いただけます。

本誌『ちばがく』の表紙写真等を募集しています。

『ちばがく』は、放送大学千葉学習センターの内外への広報誌として、大切に育てていきたいと考えています。本年4月に第1号を発行し、本号が5号になります。

これまで『ちばがく』の表紙写真には本センター職員が撮影した写真等を使用してきましたが、今後は学生諸氏が撮影された写真等を活用させていただきたいと思えます。

季節の風景、人物など、さまざまな写真をお寄せください。デジタルカメラで撮影したデータを、CD-RやUSBメモリー等で保存され、本センター窓口までお持ちください。『ちばがく』の表紙や記事、千葉学習センターホームページ等で使用させていただきます。

ご協力のほど、よろしくお願ひいたします。

学部生、大学院生、共修生など、ただいま募集中です。

ただいま、放送大学では、本年度2学期入学生の募集、来年度大学院入学生の募集などを行っています。また、千葉学習センターでは、広く一般市民の方々が「面接授業」を聴講できる制度(「共修生」制度)を活用し、本年度2学期より、在学生の聴講に空きが生じる「面接授業」を希望者にお聞きいただけるようにいたします。[関連記事：本誌8ページ](#)。

放送大学特任教授
千葉学習センター所長 宮崎 清
miyazaki.kiyoshi@u-air.ac.jp

千葉学習センター・サークル代表者懇談会が7月9日(木)午後3時から、2階の「集い・学習室」で行われました。

現在サークル活動をするためには最低10名の学生登録が必要とされていますが、本学習センターには20のサークル(スポーツ系5、語学系5、文化活動系6、コンピューター関係2、心理学関係2)があり、サークル活動に参加している学生は少なくとも200名以上いることとなります。その代表が一堂に集まり話し合うことはめったになく、また、大学側やセンターに活動を知っていただくいい機会でもあり、参加しました。

会場は、以前図書室だった所を学生に開放し、壁面には学生の絵画作品等が掛けられている広々とした空間で、奥には同窓室もあります。そこに今回は机をT字に並べ、前中央に宮崎所長、加藤客員教授、前田客員教授、山下事務長が、そして垂直にサークル代表が向かい合う形で座り、同窓会会長、副会長も同席されました。また、少し離れた席には庄司総務係長、本郷教務係長も控えてくださり、いろいろお答えいただきました。会議の進行は所長が務められ、常時穏やかにそして物静かなお声でサークルの諸問題の対応策や要望にも即答していただけるなど、今後の我々の活動に明るい期待が持て満足のいく懇談会でした。

懇談事項は、「サークル活動ならびにサークルとしての要望」、「千葉学習センター秋祭り(仮称)の開催について」でした。では、大きく3点に関して活発な意見が出ました。(イ)サークル活動について：会員確保と活動対策の問題、(ロ)活動場所に関して：グラウンド、コート、講義室等使用申請・許可の簡便化の問題と主にスポーツ系サークルでは使用時間帯や許可についての要望、(ハ)活動時に使用する機器：プロジェクターやオーディオ等の貸し出し要望とコンピューター老朽化改善等の問題や対策が話し合われました。

残りの時間で、秋祭りの開催についての説明があり、次回の懇談会は8月8日(土)に決定しました。これを機会にサークル相互の交流も盛んになることが予測されますので、サークル活動全体の話し合いの場は?の質問に対して、この会場が利用できることも確認されました(「集い・学習室」が集う学習する人と同居できるかなという疑問も一部残りしましたが…)。学習センターとしてこのような暖かい支援をサークル活動にしていただけることは大変幸せなことと、感謝の気持ちで一杯でした。「千葉学習センター秋祭り」について思うこと

これまでは、放送大学の学生生活のなかで、一般大学と多少異なる点がありました。議論や討論する仲間や機会・場所がない、サークルの部室がない、学園祭がないというようなことです。今度その無い3つの最後「お祭り」が開かれるのですから、今からわくわくする思いです。千葉学習センター独自の特徴ある秋祭りになればと期待していますが、さて「中南米文化研究同好会」としてではどのような参加方法があるかも合わせて考えてみました。

1つは、これまでの活動をパネルで紹介する方法があります。しかし、これではありきたり…、同好会設立時の目的は何だったか「討論する仲間と場所が欲しい」を思い起こし、考えついたのが「アカデミック・ディベート」でした。・ある一つの論題について・肯定側と否定側に分かれ・一定のルールに従って・最後に審判によって勝敗が下される知的格闘技です。論題の提出と審判は客員教授にお願いできればと思っていますが、この「ディベート」はまだ初めてのことで色々これから勉強していかなければなりません。これが上手にできるようになればイベント会場で観戦する人、参加する人でお祭りも大いに盛り上がるのではと夢を見ていますが、実現するかしら？。

皆様は学園祭にどのような形で参加なさいませうでしょうか。

「千葉学習センター秋祭り」についてご提言ください

7月9日(木)にはサークルの方々との懇談会、7月12日(日)には同窓会の方々との懇談会を催しました。日ごろの活動のなかで感じられること、放送大学や学習センターに寄せられる期待・希望など、関連なご意見をいただきました。

私・宮崎からは、「千葉学習センター秋祭り(仮称)」を催すことができないか、2つの懇談会のなかでお話しました。その実現に向け、8月8日(土)13:00より、学習センター2階「集い・学習室」にて、サークルおよび同窓会の合同会議をもつことにいたしました。

サークル懇談会にご出席された齋藤富貴子さんは、懇談会の様子とともに、秋祭りについての熱い思いを寄せてくださいました。多くの学生諸氏から、「千葉学習センター秋祭り(仮称)」実現に向けての建設的ご提言が寄せられることを期待しております。ご提言は、miyazaki.kiyoshi@u-air.ac.jpまで。

平成22年度・第1学期開設「面接授業」

多くの学生諸氏から寄せられたご意見・ご要望を可能な限り生かし、来年度第1学期「面接授業」の全容をほぼ確定しました。ご紹介します。

基礎（社会系）	問題発見と解決の技法－発見	大林康二
基礎（外国語）	基礎からの英文法 b	平形美加
基礎	デザインの基礎：平面	宮崎清 植田憲
基礎	まちづくりの基礎	坂本一郎
共通（人文系）	文化の伝承	萩原眞子
共通（人文系）	花卉を育て楽しむ	渡部均
共通（人文系）	地図にみる千葉県の姿	三澤正
共通（人文系）	映画づくりの楽しさ	黒土三男
共通（人文系）	異文化間コミュニケーション	大橋理枝
共通（人文系）	感性を磨く：言葉には心と力がある	近藤文字
共通（人文系）	音楽の楽しさ	宮野モモ子
共通（社会系）	子ども・若者の居場所を考える	阿比留久美
共通（社会系）	生活情報論	奈良由美子
共通（社会系）	観光を考える・地域観光創造論	宮崎清 木原稔 鈴木直人
共通（社会系）	社会学入門	島村賢一
共通（社会系）	千葉県のこれまでとこれからを考える	猿田寿男
共通（社会系）	環境学入門	鈴木基之
共通（社会系）	経済学入門	西ヶ谷ともみ
共通（社会系）	政治学入門	服部美樹
共通（社会系）	放送大学の放送施設	岡部洋一
共通（自然系）	廃棄家電は玉手箱	生井澤寛
共通（自然系）	環境を調べる・考える・提案する	長尾明美
共通（自然系）	光の科学	福士顕士
共通（自然系）	計画数学入門	蔵野正美
共通（自然系）	電気と熱のやさしい科学	福士顕士 竹内義雄
共通（自然系）	宇宙を計る：惑星Xを求めて	木下宙
共通（自然系）	環境化学入門	小熊幸一
共通〔自然系〕	有機化学の楽しさ	山本忠
共通（自然系）	身近な環境から地球環境を考える	古在豊樹
共通（外国語）	英語ニュースで学ぶイギリス文化	後藤はる美
共通（外国語）	英語の基本K	Johnson Y. 智子
共通（外国語）	初めてのフランス語：会話編	仲島陽一
共通（外国語）	初めてのドイツ語：発音編	三ツ石祐子
共通（外国語）	初めての中国語：文化編	謝黎
共通（外国語）	中国語中級：会話編	大山潔
共通（外国語）	初めての韓国語：発音編	千恵蘭
共通（外国語）	初めての韓国語：会話編	文彰鶴
共通（外国語）	初めてのロシア語：発音編	久野康彦
共通（外国語）	初めてのベトナム語：会話編	小川有子
共通（保健体育）	姿勢と健康	碓田拓磨
専門（生活と福祉）	障害のある人の市民生活を考える	工藤正
専門（生活と福祉）	高齢者へのケアと政策を考える	藤野達也
専門（生活と福祉）	着心地と洗濯の科学実験	安藤洋子
専門（生活と福祉）	健康な身体維持のメカニズム	藤澤武彦
専門（生活と福祉）	食品の機能と表示と安全性	森光康次郎
専門（生活と福祉）	子どもに安全なまちづくり	中村攻
専門（生活と福祉）	くすりの科学	山本恵司 牧野一石 森部久仁一

専門（心理と教育）	心理学実験 1	松井 進
専門（心理と教育）	心理学実験 2	森山哲美
専門（心理と教育）	心理学実験 3	藤井輝男
専門（心理と教育）	臨床心理学入門	大場 滝口 齋藤 小野 山口 佐藤
専門（心理と教育）	臨床心理学実習 A	高橋千佳
専門（心理と教育）	教育心理学実習	森山哲美
専門（心理と教育）	「ヒト」はいかに「人」になるか:知の生成変換過程	西川泰夫
専門（心理と教育）	臨床心理学実習	佐藤仁美
専門（心理と教育）	非行臨床から見た少年問題	石橋昭良
専門（社会と産業）	経営学	柿崎洋一
専門（社会と産業）	国際社会の融和と協調を考える	小森光夫
専門（社会と産業）	パレスチナ難民問題	高橋和夫
専門（社会と産業）	組織文化と企業風土の改革	宮入小夜子
専門（社会と産業）	企業価値創造型リスク管理	上田和勇
専門（社会と産業）	安全・安心な建築の構造	野口博 和泉信之 高橋徹 原田幸博
専門（社会と産業）	ロボットと社会 -過去・現在・未来-	野波健蔵 並木明夫 荒井幸代 兪文偉
専門（社会と産業）	在留外国人と日本の社会	神吉宇一
専門（社会と産業）	生活に科学技術を活かす：社会技術概論	安藤二香
専門（社会と産業）	ヨーロッパ国際政治史	芝崎祐典
専門（社会と産業）	社会調査実習 A 1	島村賢一
専門（社会と産業）	社会調査実習 A 2	島村賢一
専門（社会と産業）	日常生活における民事法の役割	大山政之
専門（人間と文化）	日本の意匠文化を考える	宮崎清 植田憲
専門（人間と文化）	哲学における生命概念	佐藤康邦
専門（人間と文化）	日本の民俗を訪ねる	新谷尚紀 関沢まゆみ
専門（人間と文化）	中世の説話・和歌を紐解く	柴佳世乃
専門（人間と文化）	日本音楽を楽しもう	本多佐保美
専門（人間と文化）	日本文化と国際理解教育：その現状と未来	植木節子
専門（人間と文化）	生物人類学：人類はどのように進化したか	内田亮子
専門（人間と文化）	中国の道教	横手裕
専門（人間と文化）	日本近代文学：特に遠藤周作をめぐって	小嶋洋輔
専門（自然と環境）	アインシュタインは何を考えたか	米谷民明
専門（自然と環境）	地球科学実習	萩谷宏
専門（自然と環境）	マクロとミクロの物理学 1	海老原亨
専門（自然と環境）	マクロとミクロの物理学 2	海老原亨
専門（自然と環境）	環境数理解析	腰越秀之
専門（自然と環境）	熱エネルギーの有効利用を考える	田中学
専門（自然と環境）	昆虫の世界をのぞく	天野洋 後藤哲雄 戒能洋一
専門（自然と環境）	分子遺伝学実習：DNAを調べてみる	二河成男

千葉学習センターにおいて来年度第1学期に開設される「面接授業」は、上のようです。すべてで、86科目になります。講師陣も、第一線でご活躍の先生方ばかりです。先生方と同じ時間・空間のなかで膝を交えて接することが「面接授業」です。積極的に履修されることをお勧めします。

なお、来年度2学期の「面接授業」についても、可能な限り早くに広報いたします。ただいま、調整作業の最終段階に入っておりますので、しばらくお待ちください。

また、上記の一覧には入っておりませんが、千葉県立中央博物館ならびに千葉県立美術館の先生方が「面接授業」をご担当いただけることになっていきます。この授業を履修するには、学生諸氏が、千葉県立中央博物館ならびに千葉県立美術館に向向くこととなります。現場で展示や作品等を目の前にして、先生方が授業をさせていただきます。ご期待ください。

上の一覧はほぼ確定済みのものですが、授業名称、担当講師名に若干の変更が生じることもありえます。この点、お含みおきください。



今年、フランス語初歩の会の「第1回 パリぶらり旅」を企画し、5月12日に日本を出発し5月20日帰国いたしました。パリ滞在7泊8日、パリ市内とヴェルサイユを駆け回って参りました。

1回目ですので、偵察部隊として私とサークル会員の今井さんとの2人旅でした。滞在したホテルは、オペラ座とルーヴル美術館の間に位置し、旧国立図書館の向かい側にある大変快適なプチホテルでした。しかも、周辺にはたくさんの和食レストランがあり、フランス人がお箸を使って、普通にラーメンやお寿司を食べていました。ホテル近くの地元のレストランには5か国語のメニューがあり、日本語メニューもありました。

5月のパリは、日が長く、午後10時頃までは女性の2人連れでも安心感がありました。知りたがり屋の2人連れは、地図を片手に毎日12時間以上は、ホテルの外にいました。12時間外にいても残り12時間もあるなんて、家事のない1日がこんなに有効であることも新しい発見でした。

パリ・ミュージアムパス6日間を現地で購入し、なんと贅沢なことにパレロワイヤルとルーヴル美術館が毎日の通り道でした。ミュージアムパスは、期間中何回も入館することができます。曜日により午後10時までやっている夜のルーヴル美術館にも行くことができました。ライトアップされたルーヴルのガラスのピラミッドに感激しました。

モンソー公園の周辺にあるジャックマール・アンドレ美術館とニシム・ド・カモンド美術館とセルニュスキ美術館は、マルセル・プルー

ストの「失われた時を求めて」のイメージと重なる予感がして、かねてより行ってみたい美術館でした。

その日は、まず凱旋門に登り、展望台から、地図で三つの美術館の方向を定めました。オスマン通りを歩いていけば良いのは分かっていたのですが、一つ発見がありました。いざ展望台を降りて通りを捜すには凱旋門は大きすぎて、四方ともどこから見ても旅行者には同じに見えるということでした。危うく反対の方向に行ってしまうところでした。

ジャックマール・アンドレ美術館は、大富豪の夫妻の邸宅がそのまま美術館になったものです。どのくらいの規模かという、一階の3部屋を特別な仕掛けで一部屋にすると2,000人のお客様をもてなすことができるそうです。夫妻は、ルーヴル美術館の邪魔をしないよう気を遣いながら、美術品の収集をしていたのですが、その費用は、ルーヴルの年間購入費を上回るほどで、時には予算不足のルーヴルから、これを競り落として頂きたいとの依頼が夫妻にあったそうです。夫妻には子供がなかったので、邸宅と美術品はフランス・アカデミーに寄贈されました。ここには、素敵なティーサロンがあったのですが、お茶代をケチったのは失敗でした。何故なら、そこは邸宅の食堂だったところで、豪華絢爛な内装はそのまま美術館だったのです。後で知りました。

ニシム・ド・カモンド美術館はカモンド伯爵の邸宅でしたが、戦死したご子息の記念館として遺族が寄贈されたそうです。豪華な家具、絨毯、タペストリー、セーヴル焼きの食器、生活そのものが美術です。

セルニュスキ美術館は、主に中国の美術品の収集です。館内は、静ひつな気配が漂い、収集した方がどのような気持ちで集めたのか、そんなことも考えてしまいました。

やはり予想どおりにそれらの3つの美術館は、プルーストの生きた時代、その生活の雰囲気、歩いたであろうところを実感しました。



せっかく学んだフランス語は、旅行客の私達は5単語くらいで、事が足りました。フランス人も近年日本人観光客が多いせいか、皆さんが、「こんにちは」と挨拶して下さいます。そして、下手なフランス語と見るや、英語は話せますか？と問われます。でも、どうやって、見ただけで日本人を識別するのでしょうか。

美術館の職員の男性は、「はい、かばんあけて」というので、苦笑してしまいました。それに現地JTB社員の方のお話では、フランスで働く日本人なら、今や、英語、フランス語、日本語の最低3つは使えなくてはと行ってました。シャンゼリゼのレストランには、英語しか話せない美人のウェイトレスの方がいました。出身はコンゴだそうです。「私はフランス語がぜんぜん話せません。」と言われて、びっくりしました。美しい言語フランス語であっても、今や共通語は、はっきりと英語なのです。でも、人生の折り返し地点を過ぎた私は、現在は幼稚園児以下のレベルであります。欲張らずに、とにかくコツコツと、フランス語の勉強をするつもりです。ブルーストが、教養なきものの文法の間違いを、物語の中で何か所もあざ笑うがごとく手厳しく指摘していることにとっても興味があります。横川先生の楽しいレッスンのおかげで、ますますフランス語が好きになりました。

「第2回 パリぶらり旅」を企画できることを願っています。いまだに、パリの夢中です。

夏休みでの皆様のご経験など、ご寄稿ください

上の「パリぶらり旅」は、サークルの皆様との懇談会でのお話をうかがって、ご寄稿をお願いしたものです。もうすぐ夏季休暇が訪れます。国内外で、さまざまな出会いをなさることでしょう。皆様のご経験などを、どうぞお寄せください。ご寄稿は、miyazaki.kiyoshi@u-air.ac.jp まで。

平成21年度・第1学期・単位認定試験が行われました



8日間にわたる平成21年度第1学期単位認定試験が行われました。日ごろの勉強の成果を十分に発揮することができましたでしょうか。

試験期間中のスナップ写真です。いずれの写真も、寸暇を惜しんで勉強なさる姿ばかりです。おそらく、皆様のご努力は優秀な成績となって、お手元に届くことでしょう。

7月22日から9月30日までは集中放送授業が、10月1日からは放送授業が、そして、10月17日からは面接授業が始まります。英気を養いつつ、暑い夏を乗り切りましょう。

写真：山本直美



「共修生」募集のご案内

共に学んでみませんか～「共修生」募集～

放送大学は、生活スタイルや目的に応じて、ご自分のペースで、「いつでも、どこでも、誰でも」学ぶことができる通信制大学です。

千葉学習センターでは、本年度2学期（本年10月より来年1月）から、「共修生（きょうしゅうせい）」と称し、本学の正規授業である「面接授業」（教室等において担当教員が行う授業）を一般の皆様が広く聴講できる機会を設けます。

「共修生」は、本学に在籍しなくても、千葉学習センターで開設される面接授業を聴講することができます。在學生と共に、お望みの知識・教養を深めていくことができます。

ただし、「共修生」が聴講できる面接授業は、在學生の科目登録終了後に空席（空き定員）がある科目のみとなります。「面接授業」は1時間25分の授業8回で完結します。また、「共修生」には習得単位をお出しすることはできません。

聴講料は、1科目あたり5,500円です。入学科は不要です。

詳細につきましては、千葉学習センター教務係へお問い合わせください。

問い合わせ先：放送大学 千葉学習センター
〒261-8586
千葉市美浜区若葉2-1-1
電話：043-298-4367

在學生の皆様へ

本学学生ではない一般の方々が「面接授業」を聴講できる制度「共修生」を本年2学期より開始します。在學生も、一度修得した科目の再受講など、単位修得はできませんが、「共修生」として学習が可能です。

「共修生」として受講される場合には、1科目あたり5,500円が必要です。

「共修生」制度のことを、ぜひ、友人・知人にご紹介ください。

平成21年度第2学期学生募集のご案内：学部生 大学院生

放送大学では、ただいま、本年度第2学期の学部生ならびに大学院生の学生募集を行っています。出願期間は、次のようです。

インターネット出願 平成21年6月1日（月）9時～平成21年8月31日（月）18時

郵送出願 平成21年6月15日（月）～平成21年8月31日（月）[必着]

在學生の皆さんは、友人・知人にご案内ください。

お問い合わせは、放送大学千葉学習センター 電話：043-298-4367

放送大学本部 電話：043-276-5111（代表）

まで、お願いします。

平成22年度学生募集のご案内：大学院 修士全科生

放送大学では、ただいま、来年度の大学院 修士全科生の学生募集を行っています。

出願期間は、平成21年8月21日（金）～平成21年9月11日（金）です。

在學生の皆さん、応募なさいませんか。また、ぜひ、友人・知人にご案内ください。

放送大学に関する各種資料を無料でお送りします

放送大学に関する各種資料は、下記ホームページ、フリーダイヤルにて、お気軽にお申し込みください。無料でお届けいたします。

<http://www.u-air.ac.jp>

0120-864-600

放送大学千葉学習センターは、年代・職業・地域を問わずさまざまな方々が集い、学生と学生、学生と教職員とが学習やサークル活動などを通じて日ごろから触れ合える場です。



放送大学 千葉学習センター
〒261-8586 千葉市美浜区若葉2丁目11番地
TEL.043(298)4367 FAX.043(298)4386
HOME PAGE : <http://u-air.net/chiba/>